

課題番号：2

テーマ名称：上水・衛生（村落給水施設の運営維持管理）

<p>1. 主な対象国・地域</p>	<p>サブサハラ・アフリカ地域</p> <p>なお、以下の国では当該分野の JICA 協力を実施中であり、下記 4. 以降の記載はこれらの国を例として具体的課題等を記載しているが、類似の課題を有する他の国での提案も勧奨する。</p> <p>モザンビーク、ルワンダ</p>
<p>2. 分野</p>	<p>上水・衛生</p>
<p>3. 関係する SDGs ターゲット</p>	<p>ゴール 6 すべての人々に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する。</p> <p>ターゲット 6.1 2030 年までに、すべての人々の、安全で安価な飲料水の普遍的かつ平等なアクセスを達成する。</p> <p>ターゲット 6.4 2030 年までに、全セクターにおいて水の利用効率を大幅に改善し、淡水の持続可能な採取および供給を確保し水不足に対処するとともに、水不足に悩む人々の数を大幅に減少させる。</p> <p>ターゲット 6.b 水と衛生に関わる分野の管理向上への地域コミュニティの参加を支援・強化する。</p>
<p>4. 対象国・地域の当該分野の全般的な現状</p>	<p>（1）ミレニアム開発目標(MDGs)の達成をモニタリングする国連の報告書（2015 年）によると、安全な水へのアクセス率は全世界平均で 91%となっており、2010 年の時点で目標は達成されている。他方、サブサハラ・アフリカ地域では未だ目標は達成されていない。特に村落地域における安全な水へのアクセス向上や基礎的な衛生施設へのアクセス率の大幅な改善は容易ではない。</p> <p>（2）アフリカの村落地域で多く見られる課題は以下のとおり。</p> <p>①水分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水くみ労働が身体に負担があり、時間的拘束も長く、主に母親の就業、子どもの就学にも影響。 ・乾期になると水源が減少し、水汲み距離が長くなる。 ・水源の水質が悪く、容器も汚い。赤痢、コレラ等の水因性疾患につながる。 ・下痢症が多いことによる子どもの栄養不良、発育不良。 ・給水施設の維持管理の体制が不十分。料金徴収が十分に行われていない。修理費用や運転費用が捻出できない。故障すると修理できない。スペアパーツが入手できない。つまり、施設の維持管理に係る持続性が低い。

	<p>②基礎衛生分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手洗いの必要性が認識できていない。手洗いを行える施設、水、石鹼等が乏しい。 ・トイレの必要性が認識できていない。 ・各戸のトイレを所有できない。 ・トレイの使い方が分からない。 ・小学校等での衛生教育が不十分。
5. 解決すべき課題	<p>アフリカ村落部では井戸などのポイント給水、公共水栓が主要な水源となっているが、施設建設後の維持管理が長年課題となっている。特に水料金徴収が問題である。</p>
6. 上記をとりまく状況	<p>アフリカ村落部ではポイント給水、公共水栓が主要な水源となっているが、施設建設後の維持管理が長年課題となっている。</p> <p>課題として、①行政・民間・住民等の運営維持管理体制全体の問題、②水料金徴収の問題、③住民維持管理組織の問題、④スペアパーツの流通網の問題等が存在する。</p> <p>これらの課題を解決するための、イノベーションや画期的ビジネスモデルの創出などが求められている。</p> <p>それらの中で非常に大きな問題となるのは「②水料金徴収の問題」である。料金設定、支払いの動機付け、公正な料金徴収・透明性の確保などの課題が存在する。</p> <p>料金徴収がなされていなければ、スペアパーツ供給網があったとしても、修理ができず水源が利用できなくなってしまうため、料金徴収に関してイノベーションや画期的アイデアを求めている。</p> <p>また、施設の稼働状況のモニタリングや故障期間短縮のアイデアについても提案を求めたい。</p>
7. 活用が想定される技術・製品・ビジネスモデル	<ul style="list-style-type: none"> ・水料金徴収の効率化につながる技術・体制 ・ハンドポンプ井戸の稼働状況モニタリング技術・システム
8. 主要関連政府機関・ステークホルダー	<p>アフリカ各国政府</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モザンビーク：公共事業・住宅・水資源省給水・衛生・インフラ管理局、水衛生局 ・ルワンダ：水衛生公社地方給水局
9. 当該国・課題に対する日本政府・JICAの方針・戦略、関係する	<ul style="list-style-type: none"> ・ JICA 開発途上国課題発信セミナー 水（都市給水・村落給水） https://www.jica.go.jp/aboutoda/sdgs/news/ku57pq00002jdrb9-att/20190313_05.pdf ・ JICA の水資源分野の協力方針～水供給・衛生・水資源管理～

<p>ODA 事業、他ド ナー情報</p>	<p>https://www.jica.go.jp/activities/issues/water/ku57pq00002cybbn-att/position_paper_water.pdf</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JICA の課題別指針（水資源） <p>https://www.jica.go.jp/activities/issues/water/ku57pq00002cybbn-att/guideline_water.pdf</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SDG ポジションペーパー ゴール 6 <p>https://www.jica.go.jp/aboutoda/sdgs/ku57pq00002e2b2a-att/goal06_j.pdf</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対モザンビーク共和国 国別援助方針 <p>https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/files/000072471.pdf</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対ルワンダ共和国 国別開発協力方針 <p>https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/files/000072483.pdf</p>
<p>10. 留意点・リスク</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 革新的であると共に、アフリカの現状を踏まえて、地方給水人材の量や能力が不足している地域でも活用可能な技術、維持管理を含め経常経費の増加を抑えられる（あるいは経常経費の節約に繋がる）技術を歓迎。 ・ 人々の健康を守るための、保健、栄養分野等との連携、もしくは分野横断的な提案も歓迎。
<p>11. 参考情報</p>	

※科学技術イノベーション（STI）を含む新しい技術の活用の積極的な提案を期待しています。

【STI（Science, Technology and Innovation）】

科学的な発見や発明等による新たな知識を基にした知的・文化的価値の創造と、それらの知識を発展させて経済的、社会的・公共的価値の創造に結びつける革新。アフリカでは、モバイル技術等を活用した革新的なサービスも急速に普及してきており、課題解決及び SDGs 達成のツールとして STI の活用が期待されています。革新的な技術により、これまで開発の成果が届かなかった人、場所に開発の成果を届けることができたり、革新的な効率化や質の向上を図り、時間的、費用的にコストを大幅に引き下げるなどの効果が見込まれます。